

児童・生徒の現状・課題

- ・児童は、示された課題には取り組むことができ、学習に対する見通しや振り返りの活動も定着しつつある。一方で、自ら課題や問いを見いだしたり、自己の理解に応じて学び方を調整したりすることに課題が見られる。
- ・教師の働きかえに加え、自ら学び方を選択し、粘り強く試行錯誤する力や、振り返りを次の学びに生かす力の育成が求められる。

具体的な手だて①

○単元全体の見通しをもたせる工夫

学習内容や学習計画を単元の初めに提示し、児童が単元全体の流れを把握することで、「自分は何を学ぶのか」という見通しをもち、粘り強く取り組めるようする。

学び続ける力を育むための重点目標

- 児童が自ら学習の見通しをもち、計画を立てて、進んで学ぶ意識を高める。
- 自分の理解の程度や進捗を客観的に振り返り、必要に応じて学び方を自分で修正できるようにする。

具体的な手だて②

○学びを自ら調整するための「振り返り」の設定

単元の途中や1単位時間の中で、学んだことや学方法について振り返る場面を意図的に設定し、自分の理解度や進捗状況を自ら確認し、必要に応じて学習方法を修正しながら進められるようにする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(10月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	74.9%	78.0%	
②学習した内容や方法、自分の力をどれだけ伸ばすことができたかなどを振り返ることができる。	78.4%	82.0%	

具体的な手だて③

○学び方を選択できる場面の設定

「自分で進め方を選ぶ」活動を通じ、学びを自分の事として捉え、探究のサイクルを主体的に進められるようにする。

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(10月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	76.0%	80.0%	
②授業の初めには、前の授業で学習したことを振り返ったり、一単位時間(本時)や単元全体のねらいや流れを明確に示したりして、学習の見通しをもてるようにしている。	88.0	90.0%	

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・普段の授業から探究のサイクルを意識した授業を行う。
- ・各単元において、見通しをもって単元計画を作成し、学び方の到達目標を明確に設定する。
- ・児童の実態や単元構成に応じて、ティーチング・コーチング・ファシリテーションを使い分けて授業を行う。また、授業の計画を立てる際には、どの場面でどの指導方法を用いているかを明記する。

総括(5月)

日常の授業においても「課題設定・情報収集・整理分析・まとめ」の探究のサイクルを意識し、児童が自ら問いをもち、主体的に学ぶ授業づくりを全校で推進する。そのために、単元全体の流れを児童と共有し、児童自身が学び方を選択しながら見通しをもって学べるようにする。また、児童の実態や単元構成に応じて、ティーチング・コーチング・ファシリテーションを使い分けながら授業を行い、授業の計画を立てる際には、どの場面でどの指導方法を用いているかを学習指導案や週の計画に明記する。全ての教員が無理なく実践できるよう学年チームや分科会で支え合い、実践例や課題を共有し、継続的な授業改善につなげていく。

総括(1月)